

いどい

仁淀川町
広報

6 2007年
月号 No.23



広大な採掘現場に驚嘆!5月12日、「鳥形山と田舎料理満喫ツアー」で鳥形山鉱山を見学しました
(4ページに関連記事)

驚

壮

嘆

観

主な 内容

- 2・3.....森林資源をエネルギーに
- 4.....山里の旬を堪能
- 5.....用居地区で焼畑の火入れ
- 6・7.....てくてく山紀行①雨ヶ森
- 12.....はしかが流行しています!
- 14・15.....コミュニティバス8月運行開始

森林資源をエネルギーに

木質バイオマスガス化発電、 ペレット製造がスタート



ガス化発電設備、実験がスタート

木くずや間伐材などの森林資源「木質バイオマス」を石油代替エネルギーと位置づけ、発電や燃料などに活用する実験設備が株式会社ソニア（佐川町）の敷地内に完成。5月18日には火入れ式が行われ、藤崎富士登町長はじめ、千葉健県森林部長や関係者ら約70人が出席、藤崎町長らがタービンを始動させました。

「バイオマスエネルギー地域システム化実験事業／高知県仁淀川流域地域エネルギー自給システムの構築」における中核設備で平成22年までの3年間、エネルギーの地産地消に向け実験を進めていきます。

ソニア地域（仁淀川町、越知町、佐川町）には豊富な森林資源がありますが、現在、森林や林業を取り巻く環境は極めて厳しいものがあります。この事業は、これらの森林資源を何とか生かしていうということから、平成十七年十月に本町がNEDOの実証事業に応募し、同年十二月に事業採択を受けたものです。

そして十八年度、カワサキプラントシステムズ（神戸市）が一年をかけて、バイオマスガス化発電設備とペレット製造設備を整備しました。

実験では、仁淀川流域の森林に放置されている林地残材、間伐未利用材などを収集し、細かく砕いた後、ガス化炉で高温にして分解させ、その熱をもとにガスタービンで発電（百五十キロワット）します。

電気はソニアの製材工場で動力として、熱（蒸気）は森林組合の木材乾燥機の熱源として利用、さらに排熱と発電した電力の一部を利用して、年間六百トンの木質ペレットを製造します。

ここで製造したペレットは、中津溪谷の森や、障害者福祉施設「湖水園」、佐川町民プール、フードプランのイチゴハウスの四カ所に設置したペレットボイラー設備で石油燃料の代わりに燃焼させることになっています。

この木質バイオマスを原料とするガス化発電システムとペレット製造施設を併設する施設は、全国でも初めてです。

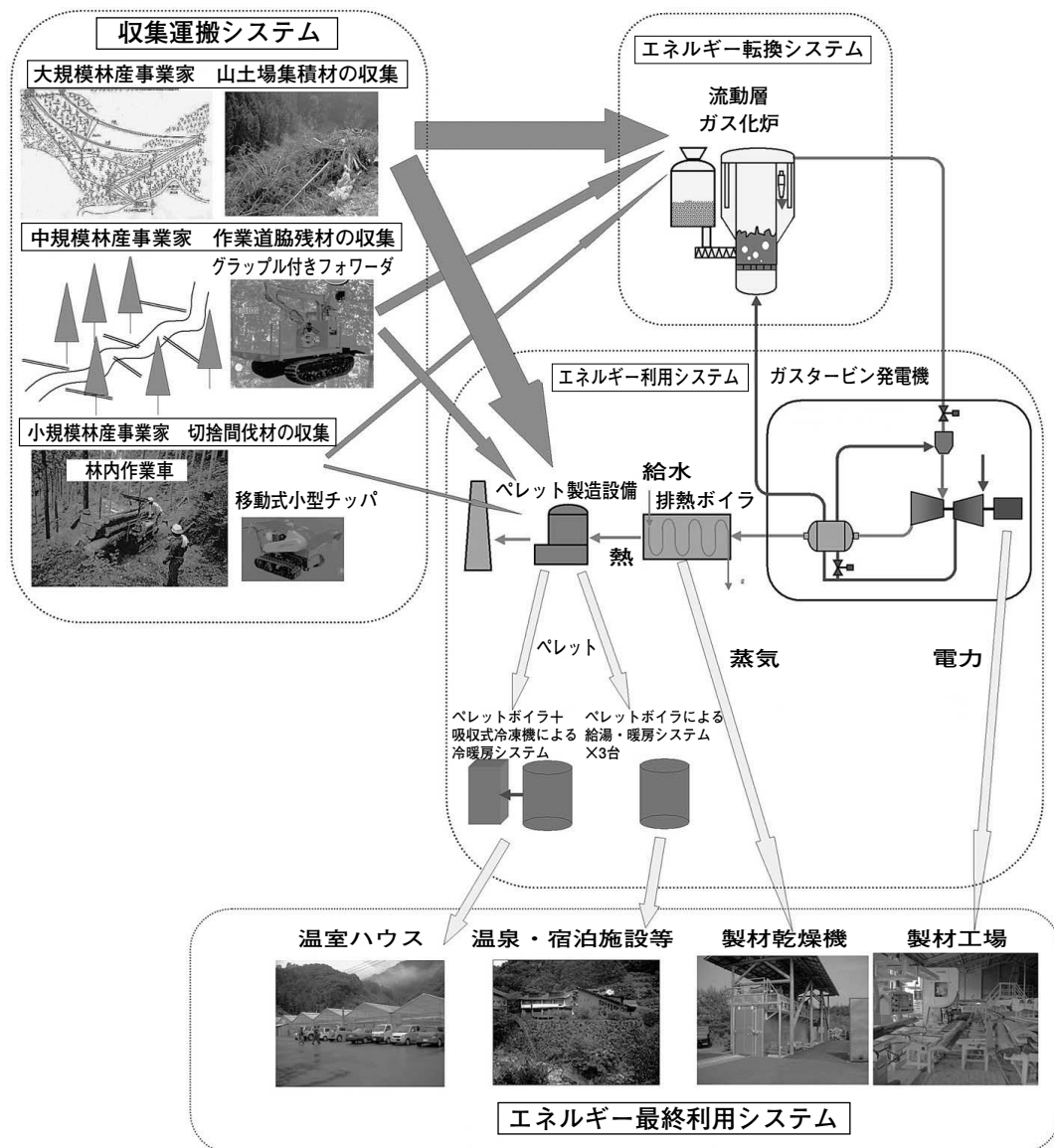
これから本格運転に移行していきますが、最初は少しづつ様子を見ながら運転を開始し、秋ごろ百％に持つて行く予定です。

本年度においては、町内の自伐林業家からも木質バイオマスを受け入れる予定で、その受け入れ体制を整えるべく準備を進めています。



ペレット

未利用材を原料に粉碎、圧縮した固形燃料。直径6～8mm



協働の森づくりパートナー協定を締結

企業と市町村が協働し森林整備を進める県の「環境先進企業との協働の森づくり事業」で、川崎重工業、カワサキプラントシステムズ、高知県、仁淀川町の四者の間で、5月18日、パートナーズ協定を結びました。

県庁で行われた締結式には、川崎重工業の山下清司営業推進本部長、カワサキプラントシステムズの林敏和社長、橋本大二郎高知県知事、藤崎富士登町長が出席し、締結書に署名しました。カワサキプラントが、町と共同でバイオマスエネルギー地域システム化実験事業を進めていることから、今回の協定が実現した経緯があり、林社長が「グループの理念は環境貢献。木質バイオマスのガス化を、高知県発で世界に広めていきたい」とあいさつしました。

町と県、企業の四者間で

協定期間は3年間で、長坂の町有林70^{ヘクタール}を「Kawasaki—仁淀川学びの森」と名づけ、両社からの協賛金600万円を活用し、森林整備を進めていきます。また、両社の社員の方と地域の方との交流や、社員の方の体験研修を実施するためのフィールドとして協定対象森林を活用していきます。



協定を締結した林社長(左から2人目)と山本部長(同3人目)ら

山里の旬を堪能

* * * * *

五月十二日、町内外から四十七人が参加して、鳥形山と田舎料理満喫ツアー（主催・秋葉生活改善グループ 山本トメ代表）が行われました。

参加者はまず、日本一の採掘量を誇る石灰石の宝庫、鳥形山鉱山を見学、日鉄鉱業鳥形山鉱業所の職員の方の案内で、端から端まで約三キロもある広大な採掘現場や、最大積載量百八十トの大型ダンプ、一回で四十トもすくえるタイヤショベルを間近にし、スケールの大きさに驚嘆していました。

続いて、採掘現場から車ですぐ近くにある鳥形山森林植物公園に移動し、公園入口に設けられたテントで、秋葉生活改善グループが作った山菜料理やアメゴ料理、いりもちなどを満喫しました。

鉱山と植物公園、おいしい料理

鳥形山と田舎料理満喫ツアー



どれにしようかな…

おいしい料理に満足した後は、ヒメシヤラやブナなど美しい若葉が生い茂る群生林と、ヤマシヤクヤクやイチリンソウなどの高山植物を楽しみながら公園内を散策しました。好評のうちに終わった満喫ツアーに、参加者からは「来年も楽しみにしています」などの声が寄せられています。

茶摘みから製茶までを体験する「茶摘み田舎体験」が5月13日、片岡繁香さんの茶園（高瀬船野）で行われました。

茶生産農家と参加者の交流を図るとともに、仁淀茶の良さを広く知ってもらおうという催しで、町外から家族連れなど7組14人が参加しました。

参加者は、茶畑に入り地元農家の方々に教わりながら茶摘みに挑戦。摘み採った茶は釜いりした後、むしろに広げて丁寧に手もみし、最後に乾燥させて仕上げました。

参加者は「茶摘みは初めてで難しいですが楽しいです」「お茶の香りに癒やされます。これからおいしいお茶が飲めます。来年もぜひ参加したい」などと話しながら、苦労して作ったお茶を手に帰路につきました。



親子で仲良く茶摘み



手もみに挑戦

茶摘みから手もみまで

茶摘み田舎体験

春の香りいっぱい ウド採り

絶好の行楽日和に恵まれた四月二十九日、町外からの親子連れなど約六十人が参加して、吾川スカイパーク周辺でウド採り（主催・上名野川ウド生産組合）が行われました。参加者は午前中、生産組合が丹精込めて栽培したウドを収穫し、昼食時には収穫したばかりのウドのほか、ワラビ、ゼンマイなどを使った組合員手作りの山菜料理に舌鼓を打ち、春の味と香りを堪能しました。



香りいっぱいのウドを収穫

「焼畑によるエコな川」が

焼畑の火入れ

用居地区

五月十二日、用居地区で「焼畑による山おこしの会」による焼畑の火入れが、地元の方を中心に愛媛大学の学生も参加して行われました。

午前中、二反ほど（約二千平方メートル）の広さの伐採地周辺に火道（防火帯）を作った後、昼過ぎに火入れを開始、順調に燃え広がって一時間半後に無事終了しました。

火が延焼しないように警戒にあたる学生たちは、煙に巻かれて大変ですが、雲ひとつ無い青空に燃え上がる炎は見る者を引きつけます。



燃え広がる炎



火入れの翌日、学生たちが種まき

翌日は、学生たちが火入れ後の畑へソバやアワ、キビ、大豆、里芋などの種まきを行いました。ソバは七月中旬ごろに収穫ができるそうです。

焼畑は、山林を伐採してから火をつけて焼き、その灰を肥料として作物を栽培し、三〜五年間耕作すると、その後数十年放置し地力を回復させ、再び利用するという山の力を利用した伝統的な有機農業形態です。

自然回帰が注目される現代、山おこしの会では焼畑による地域づくりの取り組みを今後も行っていくとのことです。

※火入れする場合は、町の許可が必要です。

町消防団関係者が表彰される

—— 高知県消防大会 ——

高知県消防大会が四月二十五日、県民体育館で開催され、本町からも消防団長、副団長らが出席しました。大会では、消防団員の体験発表や意見交換などが行われた後、消防防災に功労のあった消防機関および消防関係者が県知事、県消防協会長から表彰されたほか、叙勲を受章された方や消防庁長官表彰を受けられた方などの披露がありました。



表彰を受けた
今井さんご夫妻

本町の被表彰者は次の方々です。
消防庁長官表彰（永年勤続功労章）
野々宮正輝

仁淀副方面隊長・勤続三十二年

高知県知事表彰

仁淀川町消防団

平成十八年度全国消防操法大会

準優勝の成績により

今井登志子（内助功労者）

今井守池川分団班長夫人・

勤続三十五年

吉村小百合（内助功労者）

吉村文隆別枝分団部長夫人・

勤続二十八年

高知県消防協会会長表彰

泉川分団

平成七年から十二年間の無火災により

行政相談

気軽にご利用ください

「行政相談」は、国や県、町などに対する苦情や要望の解決について、難しい手続きなしに、どなたでも利用することができる制度です。

この行政相談の利用促進のため、5月21日から27日まで「春の行政相談週間」が実施され、町内でも3カ所で行政相談所が開設されました。

行政相談週間に先立ち、5月15日には、高知市で行政相談委員全体会議が開催され、総務大臣から委嘱された県内62人の行政相談委員が一堂に会し活動方針の協議などを行いました。

この席上、行政相談委員協議会の発展に貢献した功績に対し、当町担当の行政相談委員、鈴木数秋さん（上土居第五）が社団法人全国行政相談委員連合協議会長表彰を受けられました。